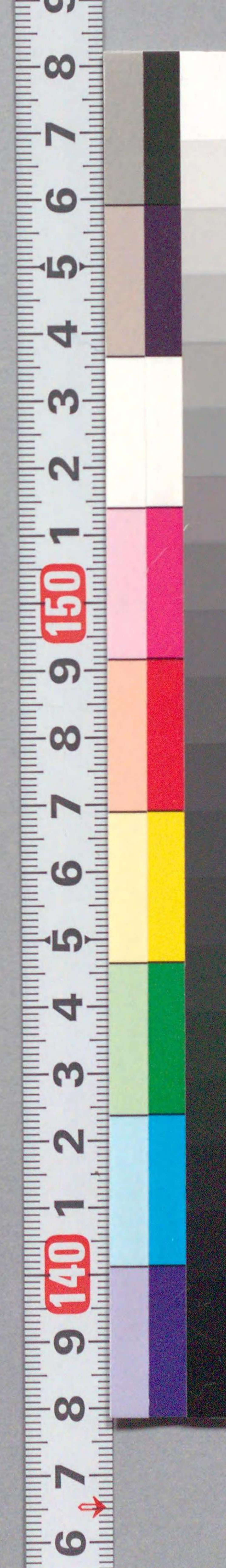
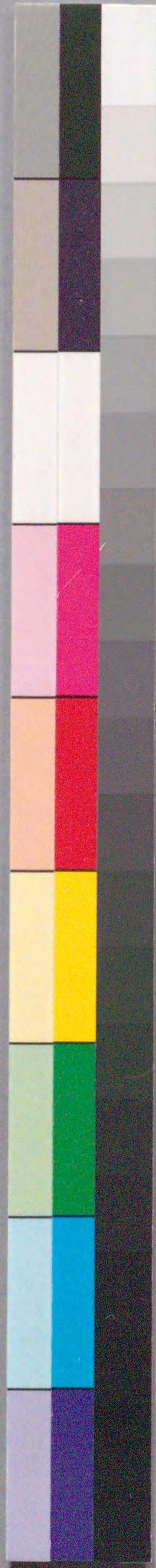


国立国会図書館 敵討猫俣屋敷 208-165



ガラス使用



国立国会図書館 敵討猫俣屋敷 208-165

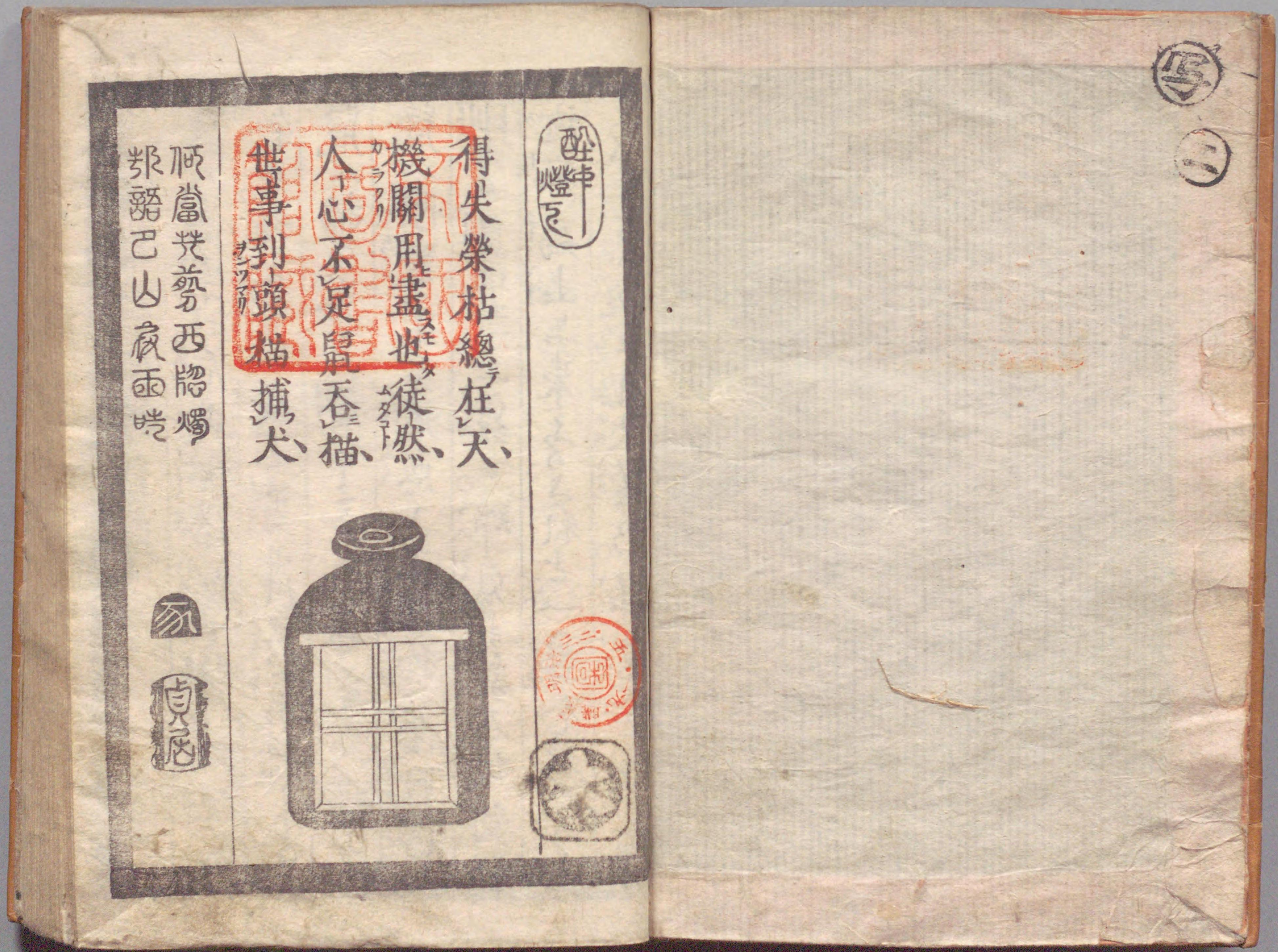
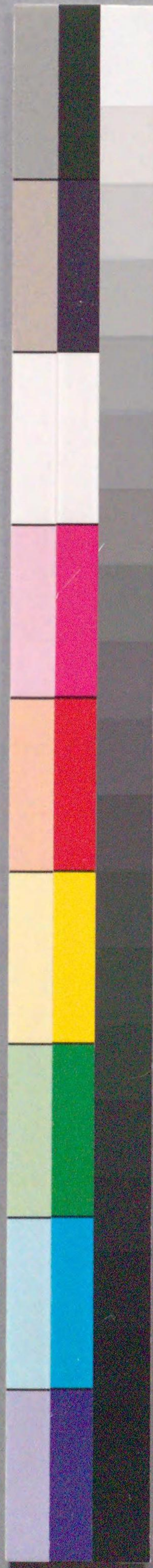
ガラス使用

208
165

わんた
一

敵討猫俣屋敷
全

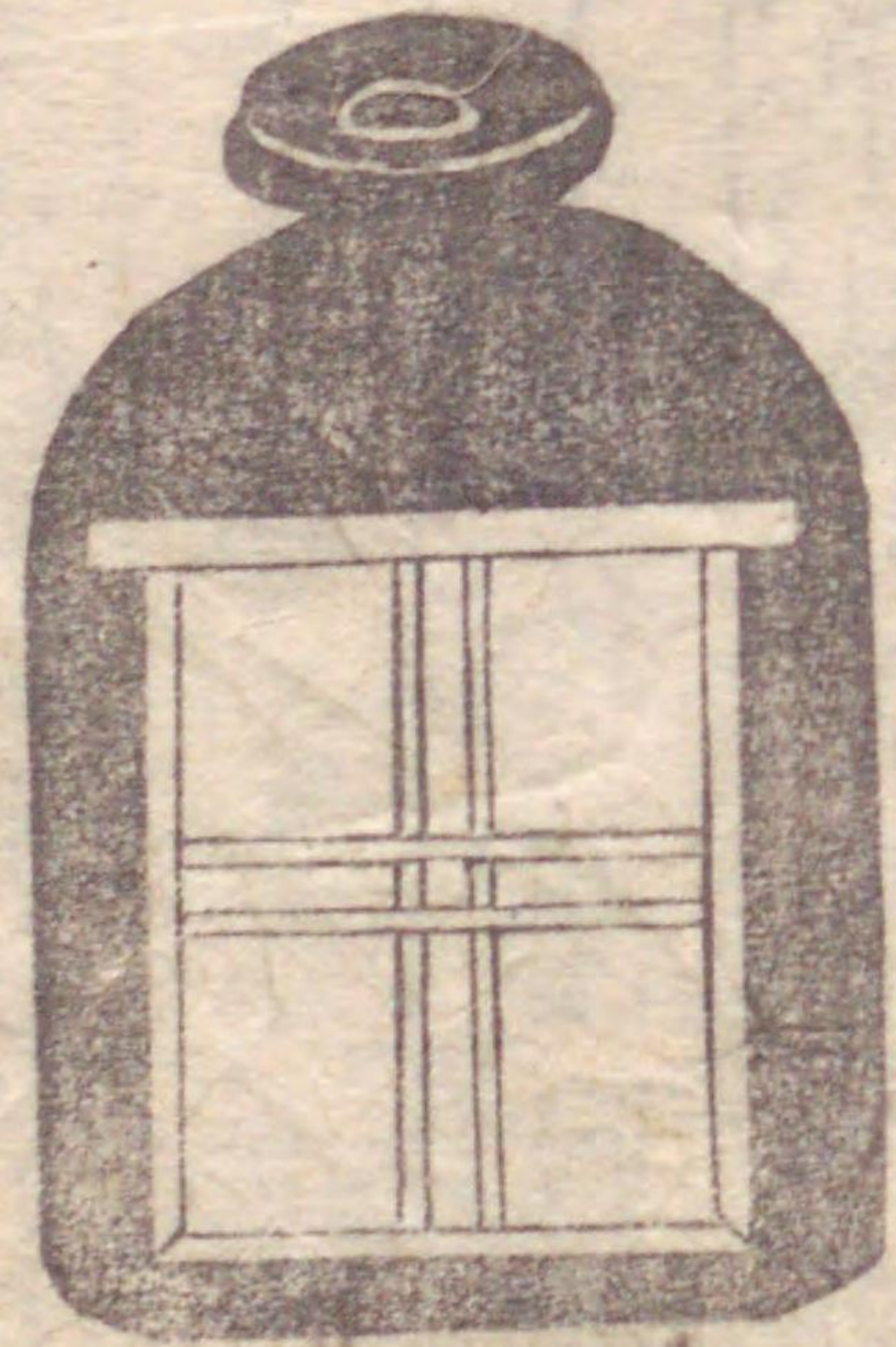




醉
燈

得失榮枯總在天
機關用盡也徒然
人心不足鼠吞猫
世事到頭猫捕犬

何當焚勢西窓燭
却語巴山夜雨時



復讎猫股屋鋪自序

唐乃高宗たうこう此右武昭儀きさうぎ妬ねんで蕭淑妃せうしゆき戎

殺ころと猫ねこと鼠ねずみハ武ぶと蕭せうと此こゝ灵れい鬼き化けして

鼠ねずみハ猫ねこの為ためハ製せいきぎるるややややととバ猫ねこを

鼠ねずみハ陰獸いんどうふして溷こん悪あくして特とく狗くハ陽獸やうどうはして

剛ごうきき良らの卦くわハ象さうるる那な鬼きと狸ねずみ乃な仇討あいつちハ

迦あ痴ち羯けつ山さんハ東とうふふこれこれどど一いち番ばんをを移うつるる

ああととししくく仇あいつとと抛な夫い蓼れう乃な作さく者しやととちちららをを

豎しゆん東とう昔せき鼠ねずみの中ちゆう下げハ徹てつままるるややんんどどううきき

方かたの御おん伽が策さく子しととかかららハ猫ねこ中ちゆう金こんの

益えきなきなきハああははとと夫い奔ほんののたたままららががききハ猫ねこハ

ちちよよららハハひひちちよよららととちちよよららとと福ふく鼠ねずみの上じやう忠ちゆうが

ちちうう本ほんととはは慶けい賀が堂どうハ壽じゆう々々辰ちん乃な春しゆんをを

新しん版ばんととハハかかららハハああととししくく。

文ぶんハ化けとと四しのの年ねん如ごと月げつハハ了りやう終しゆう



中武義淺草乃隱士

振鷺亭主人



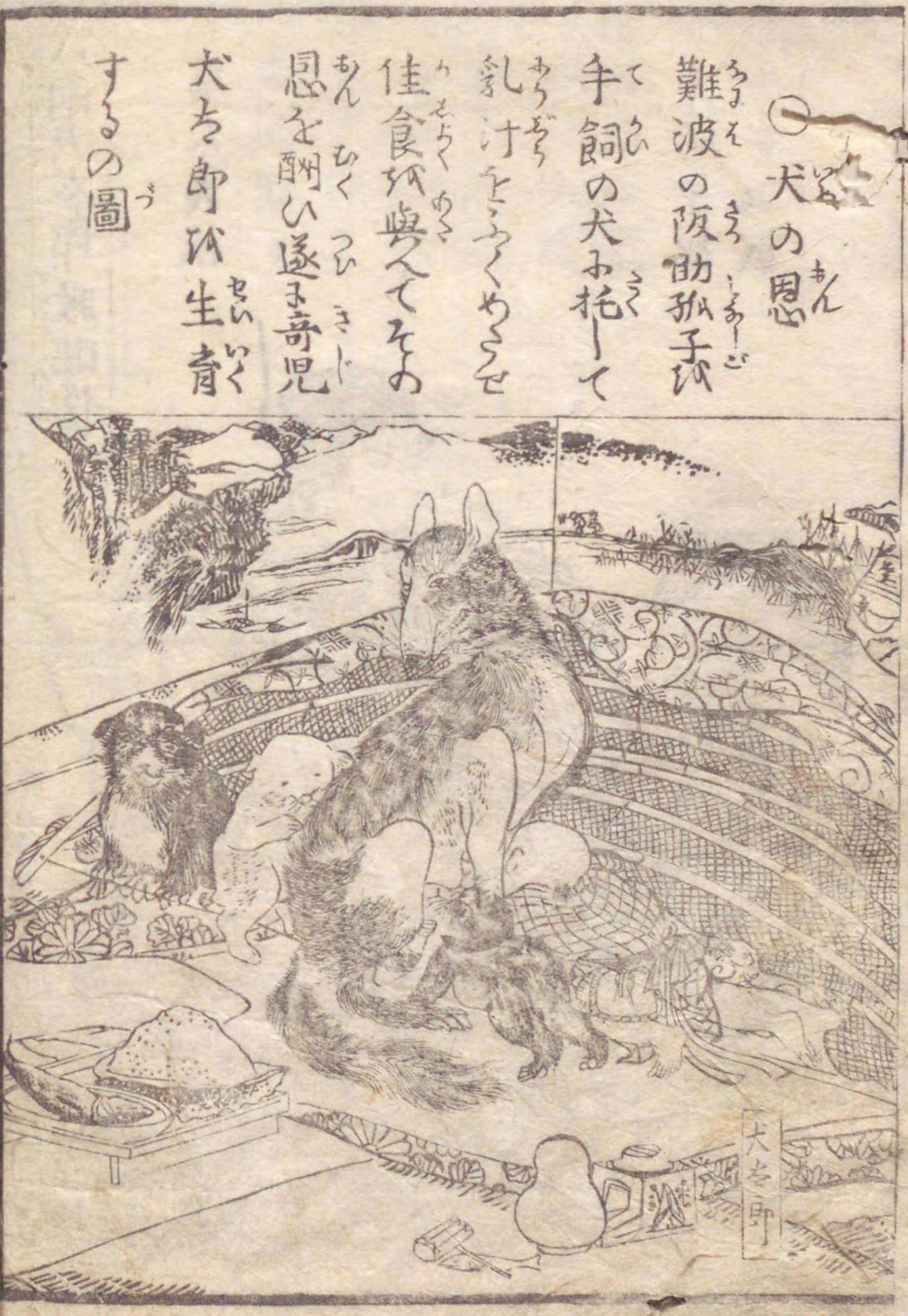
筆戎金龍山下此

僑居小操る

八角犬太郎政昭像

為人義撥
威風凜々
面色如玉
身長六尺
容貌魁偉
皮膚肥白
膽氣如烈
火時年紀
十有五歲







主夜神

婆珊婆演

此咒ヲ唱レバ鼠賊
障導ヲナサズト云

盜賊鼠偷二

鼠偷



不

ホウホウノマニナリツ子ニ
北方之魔神也恒
毘羯羅大将所降伏

鼠賊夜叉神之像



仇乃猫

於讚州小豆島八角犬太郎討猫魔圖
奉讚州象頭山金毘羅大權現懸繪馬

東都路齋北馬畫圖



敵討猫魔屋敷

振鷺亭主人 著



魔屋 窟

高臺于外而見則煙起民之窟者贍爾兮里と
仁徳天皇の御製まうく難波此都へ往古より
花の地ととをうまらる愛小橋忍大坂長町乃うら
信家又限助しつるとのあり生泊篤実しして正
直乃乃ふやと百紙屑買世の笑とほて務ふおろろ
し川まはるく遠る中に雲のお虫懐妊し



殊文雜産女のどと阪助も数業をやせて船夕乃
 徒系成姿一乃進べ七夜のうちまがうも又紙屑買ふと
 出小なる書へ夫の爲に成宿倦くむとさころ細く
 我身の惱よとせとくく走しきりものかよと進川産し
 赤子を捲抱きほ乳のを捲ふと居くとと暇をほどか
 誰中ん起あくとと擡笈をりのありぬ並切心か安を
 とも志日ひのよとる声とく我兵を見よやくといつと目成
 道なるもよとといつと目ひ可登は三毛猫との太
 五尺胸とまりてとんとと尾ハ二股ふ割さ
 状凶し口辱しとまで裂碧玉の下まき眼を怒してをを

眠洗あつる怖しとあ並ハ一目見るより叫とて後入
 ながらも外高の方と逃入んとせ處成得の猫子くもあ並
 が喉咽ふ嚙つころと一口ふ喰殺しぬは附あつらとまり
 乃者ども名揚ふ出なるるよと進ば誰あつらと知らるものそ
 なるけるは阪助も初とハ神さぬ紙屑買ふ出らとど
 雲があつらと何とくとく我家のつられ案とら進らりも
 ありく立ぬり乃も小書へ血も流れてお例とわおりこと
 いうふとつらつらとや喉咽の刺されよとどくかよと進ハ何
 がの息ののよとてきあつられ死骸をえるよりも阪助
 才狂到らとどく立川居つ身成関(無志骨陸小



徹て歎^{あげ}き^るほど程^{ほど}かろ^うお借^かり^のを^らも集^ありて
集^ありて^の會^き議^ぎと^もも^の何^{なに}者^{もの}の^おも^も知^しら^ずと^も
及^{およ}び^もも^の無^む意^いを^も来^きの^たの^まと^もと^もと^も
阪^{はん}助^{すけ}を^いさ^え書^かの^亡骸^{がい}の^の夜^よ千^{せん}日^{にち}ふ^り送^{おく}り^て
毎^{まい}夜^よ乃^な烟^けと^う一^{いつ}ふ^りの^さて^も阪^{はん}助^{すけ}の^書ふ^りと^も
一^{いつ}ふ^り忽^{たち}ち^ひと^う心^こか^えき^身と^うり^七夜^よの^脱び
引^ひく^初七^{にち}日^{にち}の^遠疾^{やく}と^うり^まれ^ども^乳腹^{はら}子^こ
ふ^のア^アて^此何^{なに}ど^のせ^きに^も出^でさ^まば^たや^一銭^{せん}乃
終^はり^て何^{なに}を^いふ^も供^くぎ^もぎ^も足^たら^ずも^なく^我身^み
の^長の^さる^るな^らず^もハ^乳ふ^とな^まと^う瘦^せか^とり

晝^{ちう}夜^やな^らず^もの^さに^やぬ^まさ^まば^たの^いち^じこ^親の^身
み^とア^アて^いう^たら^なん^阪助^{すけ}種^{たね}も^盡る^るハ^うの^う
糸^{いと}も^我子^この^乳も^乳も^試と^くハ^胃を^裂く^も
あ^まと^く殊^{こと}も^血の^涙を^ぬじ^のの^鏡臺^{たい}の^雉も
の^雛を^去月^{げつ}む^凡情^{ぼんじやう}よ^てあ^りれ^たか^なき^まさ^さぬ^なら^ず
さ^ても^又阪^{はん}助^{すけ}の^日さ^ら班^{はん}の^女大^{おほ}成^{なり}飼^{かひ}は^あり^が
何^{なに}に^もは^自分^{ぶん}の^食物^{じやくぶつ}を^日ま^てあ^まの^外
ふ^らむ^んら^うに^は彼^{かの}犬^{いぬ}ハ^尾成^{なり}と^うて^阪助^{すけ}
出^で入^いを^慕ひ^登夜^よ門^{かど}口^{ぐち}成^{なり}と^うて^年ご^ら
居^いる^もさ^はじ^がけ^不と^孕る^るや^うを^よま^すは^る



阪分を甚く喰ひんふありひ我家の撮乃下よ
たまなるふは女書のおとと同日に産一
海より阪助が書へみぬる大へやむくと撮
の下をてうとあとし七八隻の子女乳をうくま
を自ぬさぬ成阪助はくぐくと見えむら
やましむなうて大よ對てなるハ班よ係るハ乳
あつて去あ己せぬとども我子をえよ母へ此業小死
て乳よたぬと如此よ瘦不とうこれと我身分はく
くくさるに中よべきよのさてあき物あしく進進ふ
乳をりふぶきぬをなる進ハ今ハ又たに

よア外なく我をかせだよ出づしてかくてハ肌て死ぬ
がきう我死ぬるハいとを結ともいうふくても我子ぬ
びんううさうとて諸合ときおぬをなく年久しく
飼ぬる三毛猫さ我愛しきをえ取うて何地坊ん
新もなう一殊よ猫ハ三年飼まうと三日のおん
と知大ハ三日飼まて三年のおんを去るとむう
よりを信されバ大ハ義成志るりのそとよ
と我への毎ハ久しき訓係を我えんの下よす
ハハ別我家乃渚かういふはせつ我をすふと
とひて一つの死をぬへくまきやと真実ふいひ

6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

凡そ彼^{ウのい}に會^あはりてやうとてむ^こら^うに
れ^られ^ば阪^さ助^{すけ}さては笑^{わら}ひ^て遠^{とほ}く^はや^は是^この^う事^{こと}を
を^を解^とく^も地^ぢ成^ぢ走^はる^も歎^{なげ}む^も親^{おや}子の^こ情^{なさけ}を^を去^はる
と^しく^ばい^ふお^のと^が乳^ちを^を我^わ子^こに^に飲^のせ^くま^まじ^き
や^とそ^れに^に我^わ子^こも^もお^いち^ぢに^に我^わと^のせ^きは^は出^いぬ
に^に親^{おや}子^こが^が命^{いのち}を^をも^も失^しな^ぐと^とし^りの^のま^まに^に殊^{じゆ}は
命^{いのち}の^の大^{おほ}恩^{おん}ある^をと^とむ^とし^り人^{ひと}間^まに^に語^{かた}る^がむ^むく
む^むと^とし^り憑^つく^くと^とく^く候^{まゐ}と^とも^もに^にま^まを^を合^あせ^りま^ま
に^に彼^{かの}大^{おほ}畜^{ちく}生^{せい}と^とし^りも^も阪^さ助^{すけ}が^が感^{かん}激^{げき}の^のと^とむ^むく
は^は日^ひち^ちこ^こで^でらん^ん乳^ちは^はす^すぐ^ぐら^らぬ^ぬさ^さら^らに^にお^おい

と^とあ^あく^く撮^とる^る下^{した}成^ぢた^たい^い出^いて^てが^がや^やぞ^ぞの^のめ^めく^くと^と驚^{おど}る^る乃^な
と^とよ^よあ^あぐ^ぐり^りの^の海^{うみ}に^に赤^{あか}子^この^の傍^{そば}に^にあ^あり^りて^て横^{よこ}に^に臥^ふす^す
そ^その^のさ^さぬ^ぬは^は乳^ち成^ぢる^るま^まま^まと^とい^いた^たぬ^ぬむ^むろ^ろの^のあ^あり
さ^さま^まな^なら^らぬ^ぬに^に阪^さ助^{すけ}さ^さて^てこ^こと^とい^いは^はな^なる^る我^わ子^こを^をこ^こ
出^いて^て女^めの^の乳^ち房^{ぶどう}に^にあ^あて^てこ^こら^らに^にあ^あり^りへ^へ忽^{たち}ち^ち泣^なか^かす^す
す^すら^らく^くと^と乳^ち汁^{じゅう}を^を吸^する^るぞ^ぞ志^しぢ^ぢき^き阪^さ助^{すけ}く^くる
殊^{じゆ}勝^{しょう}の^のさ^さぬ^ぬを^を見^みて^て今^{いま}さ^さら^ら奇^き異^いの^のと^とい^いは^はな^なす^す
ぞ^ぞも^も此^{こゝ}の^の人^{ひと}も^も語^{かた}る^るを^をや^やと^とを^をた^たえ^えし^しる^るも^もを^を日^ひ
よ^より^りて^て彼^{かの}女^めも^もひ^ひる^ると^とな^なく^く時^{とき}に^に撮^とる^るの^の下^{した}に^にあ^あり^り
出^いて^てぬ^ぬら^らむ^むく^く乳^ちを^を食^くら^らぬ^ぬさ^さら^らに^に人^{ひと}間^まの^の母^{はは}子^こは



其^レか^レの^レま^レに^レ阪^レ助^一股^レの^レ若^ク男^ヲを^レ体^レめて^レ大^ニ喜^ビ
^レる^レ理^カら^ウか^クて^レ申^丹あ^まり^もさ^らり^も小^ある^日橋^の下^ニ
俄^ニも^ころ^づく^る大^もお^びや^まく^は何^れふ^その^しを
た^おり^て何^れゆ^えと^レ阪^助様^の下^を見^やり^らし^り
彼^の大^七八^隻の^ふを^おし^らせ^し囉^こじ^らり^阪助^大ひ^ま
呆^たて^てく^るも^おは^彼が^つく^と驚^きの^よも^あら^ず阪^助
ふ^も乳^をふ^く使^がら^らふ^らり^てお^志不^進首^を抱^き
て^おし^らり^阪助^無惣^のゆ^をふ^しつ^るよ^と吃^つも^何
ゆ^えか^のま^がふ^を嚙^こじ^らん^畜生^のあ^さは^らし^よと
と^ひお^しる^ふそ^の時^らり^てや^様の^下よ^あら^わい^と入^り

さ^らと^あれ^ば阪^助心^づき^ぬへ^ぬ乳^はど^りて^申蕪^る
ゆ^えか^のま^がふ^成殺^して^我子^をた^らし^んと^する^心ゆ^や
さ^てお^く人^間の^おし^られ^も及^ぶべ^らず^とて^感涙^をな^ごう^く
大^小思^案を^あら^く謝^しか^らま^らじ^らる^ふた^の驚^抱而^し
の^お小^察を^ぬけ^りし^後に^彼が^翌夜^つき^とひ^て他^に
小^乳母^のま^をく^りづ^きら^しま^るふ^り又^母の^おひ^もや
乳^母を^ふら^んで^むぬ^く睡^を或^の遊^戯な^どと^して
些^も泣^けぬ^らず^に阪^助今^のあ^ら人の^おひ^をぬ^け我^子
を^たら^しめ^らし^めた^き心^なく^低屑^買ま^ぞ出^よら^るゆ^え
ぬ^おの^時に^又ぬ^れを^この^むど^よと^その^首と^抱き^て



と戻りふい緋き魚を買来りて彼太を死走奪
とるゆ斜りさるる実や嬰児の生長をゆ日
月と共よ七や七月のなあずく遠不どにり八月と
さち九月よもたうぬ止むととや乳かきとくも
乳あがるどく阪助^{下先}をやとえくおひや
あ止といふもた乃大恩我子のあな止べいにも
して食物余ちやうふと日夜務とくとも鬼よ
角よまじり合せあーくある日大坂中をまじり
く雲の屑をよ買出さど善ゆ及て多津乃
五た町成通りなるも粟麻しく位なり

家の内よま若侍^{コノヤサマ}立出く紙屑や賣やぐべいと
いふよ阪助とのまう三十二文よ件^{くだん}の紙くすぞ
買とりその日ハ是成路りとく我あよと海を
くりしがさづの紙屑なご志らえらる中より何
やうん及吉ふはくさくもの出さり阪助つきを
解く開きえらるふ九十兩の合子なまを阪助
こましくいふと肝^{きまも}を渡して大ふ呆^{おろ}せしうえ来
正実^{まこと}無慾^{むよく}のを乃うまへを怖くといひて振ひ出
是への信^{しん}開^{ひらく}しきにえまぎれば合子を紙屑の中
まぎ道^{まぎみち}こぬせどりのあんりさく人の合子なごよ



給矣つゝるるるるるるの侍いさささささ
いはいともあまうる大合を我身かよてあぢなさま
人の難ひくまて後難の程もさささささ
附もささささささと件の合をえ乃ささ
紙屑の中に入ゝ急ぎ五高の早仕のあま到
見えばさや明家とかりとて阪助あご不審
とひ隣のあまうさささのあま貸受あまとの
月より武家方とさささ旅宿も借さささ
今日引さささして案船のささささ西國方乃
侍亮とさささささ名をもあまを知りひささ

いふ阪助いふく候止の合をさささ
こといさささささささささささ
胤忠治とさささものあり人々胤の妖術を
いさ世に胤と俣号せ何の源にといさ
もかく料をむさささ人乃証人などいさ
をささささささ阪助像者いさなあれとも
成借の証人はさささのさささ先忠治は
くお候せさささとささあおささささ
あさささ阪助がさささのさささささ
ささささささささささささ聖人も天乃

6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

響ふるをさらさば却て罷せしむとらへるを合の
あはれとして懸とくするのありさして大合
とらふもあはれ後日の法あはれとて何下ど
るあはれ我もきやうお討らさんほどにうづ
おゆるびくべと申あれば阪助も法ごとくま
さることもとらへる心易くすしてたはる人
かとの申せしうと後方の有るまはれまど
人ふの語もあはれと思ひ懸となす一人住
乃願西とらへる乃ら者の方よまらう併の
やう成行もまはれ法あはれおこし合を捨て

さの苦者のゆにもあはれと申一過のら
天道成るもとらへるまはれとてま合の
西國方乃はとらへるあていつくをあてよ
たのちの申もあはれ却てまより見るま
まはれとらへるまはれゆもま合子八人のら
さるやうも法檀のうちにとらへるあて
申けしは阪助の合子を推乃らあはれ西
かあはれのま合子成法檀のうちにおま
しとあはれま合の番人やとらへる心
秋心とらへるあはれとらへるあはれ



の五たう町の証人あはれ来るいっよや阪助合と
拾ひくいふんろく教かる可矣さよと進ハさて
おき我亡父の年回ふあこまこまばらたりの重
のうちをこーらくとして一重の牡丹勝を信物と
して無へ成そろくよのこまて又外こへとして出
ゆきろ阪助のまづ忠告があこ一牡丹勝を信
物よそなつての合子を合よ付持出んゆきま
あー又おーおんもんを頼まらそまらた
如素たると一らも志どろへ我合子を認るく
をおーむおへあさまも今にも持自に出合せ

ん付償えを力なあれバむといふ合子の要心
合子の忠後加護あせめと志どあがりて扱
ま出んじこま一あまの大阪助が旗をくく
く志きまおしと免る進バ阪助はゆうもそ入
ていらろお志得進てえゆいさしてらんあーま
我も忠にありこ死ものなれどもさるみうくた
今日を送るかぬりなりよろしくぬらぬ小豆を
買てきてこびてんかこの信物お合子をあま
あまの戸よ登人の用らるまぐもたのむかろ
とく取くま出んけらあいうままん天秤ふら

洗と申よりあはれれば何となくらざりし首途より
後乃あされと志ら紙の恩を反吉の買出し
み荷を引擔てぞ出めり。

○鼠の偷

爰小隣家乃願西ハ之集亡頼の惡徒かうりるが
後よ母をつきて阪助が今つぬやき一袋を返し
るその間をえこま表の戸ハ候あまおのが様乃
下ふらまり入廊下を忍びやうふつてひて阪助が
後居の肉もえひ出し処ゆるの大い思も乳を食
えて睡おるが於西が怪しきてるをえりより吼

とけりあつてあらず於西人や知物なる畜生めと
謔つた松檀をえよバ牡丹候成候てありらばこれ
おど口どえおどらするとく牡丹候を與へるり
この大ハ見向もやぞいよ、吼養も於西ハ怒り
合子乃賊市を首ふりきてさらバ我を相待
せんとして牡丹候成一口子喰ひ疑ふ様の下よ外
へんとともるをりの大吼怒りて飛く里りまはだ
於西志や畜生をと宵あふ捺刃とあらぬてあづ
一突り突り直バ大ハ胴腹を突ぬるは一声叫び
那空み死しそがり於西哈々と歩喚ひおのこ



牡丹豚とくらたぐあさら命を捨つるよ我又宛
一のらふどしとの牡丹豚をとつてふひるが忽ち
口中より血を吐き去く遂に牡丹豚を生
吐出し五臓麻痺して赤魚より怒もせず
目を白くし馬をけし七轉八倒してのらち
むとせ若し死ふ死する自業自得報乃
報を悔しき日阪助ハ業自りなり我が
妻も悔り多し此の怪有るとき啼色よ何れと
まぎ戸を引明く又直に西ハ血を吐く死
大ハ突殺さる苦みりきしてくは直に阪助

大ゆ獲きまハ大の獲りてと獲らるよお借
乃者ども弛集りておをるよ於西ハ阪助
が西指の合戦布成五甲に怒ておはるバ
なく買ふ入るよきはぬら大ハ吼る切
されらるよお遠くさるよても於西ハ牡丹豚を
喰ひ血を吐て死するよ是ハ牡丹豚ハ是
大毒を入あきしと是は何さる牡丹豚ハ是
あき免と會議をもよは牡丹豚ハ今約五
町の若治が持来りてハ阪助を毒解く
阪助が爲るよ借殺の証人なるは

ふおのが方お引死べきお治が巧と知まううさへ鼠
忠治を捕まゝんとては五人の仕者ども五高の町に
引アノガリとておみぎするやと表もむくさせ
先何業かて一人肉お入るお治用こそおはさ
とておを引まを忠治らぬとておをさへ
乃道を一入つとて後抱おむ多と引組控倒
さんじ又一入足を捉て引倒さんとかなる
不思儀やお治がその巖網乃てすらすくと
脱出つらくと柱を登り架成はてしてそ
急らひき消てく突おけり人々おいふと怪

候も危然と果して外雨にむ之者を表
より戸を引まじりらてお逃出らんと高次を
以てお時居の下乃なびより白用出る逃走しとて
このまかりしがさてお忠治白用の幻術を傳ふと
つるが儀形の御よて人乃眼をくらはし逐電かじ
らりのかゝると人々奇異のまひをばいよく
お治と於西が悪事かくまかくお人ふくま
さのハなうりお高次おハくお事おハ思はれお
樓なるまきとてお乃死骸をバ檀取寺お送
前頃埋るるお大の塚お葬りて累古乃吊ひ

6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

最然いとねんごろうも笑いとつらるるが女むすめ別わかれてより大おほいふ力をちからあて
らと思おもはるにはたや乳ちちのしきも日ひはほし生長せいじやうし
て名なをも大おほき身みと号なづさばゆえ来き陽やう歎たう乃な乳ちち
汁じゆ次つぎ飲のみるしりや精せい氣き運うんしくあひこちて乳ちち
七しち歳さいももかりりふけり阪はん女にょ我わが火ひハ襷たすの生なまけらうと
そ身み通とほるりふとなくくる足あし痿しびれ志こころももてて靴くつ脚かき
自由とよかかずすおのの味あじるる世よのの笑わらももかりりささくくししく
遠とほも親おやみ人ひとの内うちももままくくつつまま乞ねがひひささききをを切きら
ぬぬものものども阪はん女にょが行まゐりりかかひひささききをを切きら
ぬぬ大おほき身み孝かう行こうのの足あしをを女にょ抱かかりりつつるるををあありりま

とて孫いざなり扱ありり車くるま次つぎににととあありりままりり大おほき身み此こゝれ
よりして父ちちを車くるまににののせて大おほき身み乃な街まち巷ぢやう成なりありき
流ながるる節ふしありりふ志こころ公こうををううひひ或あるは住すまみ海うみ乃なと
栖すまりりとしてしていいままりり乃な人ひとは紐ひもををむむるるあありりままりり大おほき身み
身み小こハハ隈かみみ成なり纏まとへへども目め秀ひいでろろ眉まゆ清きよくくととるる足あし
拙こゝろくく色いろあありりままりり白しろくく玉たまをを敷のくく容よう貌ぼうあありりハ
又また人ひと志こころ鬼おにををあありり愧かぢぢ物ものととかりりて一ひと跡あと二ふた跡あとのの好よろこ
ゆゆせせぎぎるるものものハハななりりるるそそのの了りょう後ご告こゝろ誅しゆ乃な
のの徳とく多た車くるまととて人ひとととあありりるる跡あとハハそのその目めはは種くさね
ハハあありり阪はん女にょあありりくく樂たのびび活きののここひひををななししくく



身ハ飛人ひのされども何なににふまゆまゆも又また近ちかしが娘むすめと田ひき風
乃すなはち北きたより次つぎ身みに重おもき湯ゆありををいきていまだ
今いまハこのこのこすくなくなくと人ひと事ことはバ阪はん女に女にを弟あにふ
むろひな後ごをなびなて中ななるハ我われもたや世よ度どが
賊あしひらををなれば任まかし中なかちちあり任まかし
母ははハ産うちとすと耶や附つ子こ何なに者ものと知しまを教おし害がいも
あふてあくなき宛あて給たまをと歩あり任まかし無なきと云い
いりりて生な長ながむさむ母ははが教おしを討うて終お尾びの
妾めかけ殺ころすすば二につみハ我われ下くだ持もたし法はの
十じ面めんの合あひを任まかしあづくるなりは合あひを

えより我われ合あひにああらざるざる誰たれとも志しねどもと
包つつ乃すなはち及および吉きち小こ徳とく又また守まもり川がわ那な小こ夏なつ徳とくと書かはし
あり任まかしと成なるがまとして後あと任まかしと合あひ
乃すなはち主ぬしを尋たずね出でし世よ合あひを送おくり返かへしくまよさ
それバ我われ景けい景けいののか事ことよての喜よろこびはくやある
なきは合あひハ人ひと乃すなはち室むろとぞ思おもひ世よ年とし月つき徳とくも
多おほく苦くるみせぬ身みを投なげ死しなるとまで
思おもひはるる時ときにむるをつまふしとくわく
飛ひ人ひととかなるまでとくく然しかしとあはしかり
今いまは合あひをく大人おとな参まを用もちひるはふよ一つ

たともゆもあつる道と我命はくても此命を
を持自ぬ送てあつる念念のまばのうらみ父か
本意をこすう車なれとど語つるまばたを
はるぐりて母の仇の天も昇りて比成るまてを
尋出て奉命を盡し中さんかて悲しき父の
病ひかりぬ云及るぬ命もせよ命もろの室や
あらん何とぞを命を人參代も立替て今一度
奉後なりあまじ我身こそや生長ぬせがいのかる
艱難をいよとぞ幸き苦きをかりし土雨の命
をバ償ひきりよ返すまじとて天もも地もも

をとうの又ぬたぬまのせ我身の誰をわさる
ゆるみぞやと涙をせらくとなじて中らまば阪女
依ての外も服は作さるるのふ甲斐なきん底ふ
てハ款を討るも是れなき又命を何とぞとん
我生涯かてせぬに非乃怒をなまは父了我
かく踏踏ふきぬよ命記さるとも天道憐れひて子孫の
うるす業なきに保お多て人の物をむさがるん
あるびるびとくまぐと教訓うらまはたを度へま
吃しておまはは後款をよせとさるる延命散と
その来アてまじとてつはふ出ぬるぞ表



ある阪女はけろく歩を人送せて今生の別れを
親も乃名跡かきまて悲歎の涙よふまらぶか
や大を師むとての親もそるまば乃のかとてよ寝
てり大もや嘆まやすんさやなぐ大を良か孝ん
天ぬちをきゆくさき成せぬん我のそや定所
なと乃薬まで石衾いきのぶなき命とも是へす
なうく死病ととひあきてめされ大を師よもをく
苦勞とさせぬ末魔のくやとて人せんうらハ一割も
そやく養生を遂び一と急て是怪ハかやなぐも
我子の輪廻にむきされておくらんを観念し

終ふ舌を嚙てぞ死するハ哀かなむもわくら大を良ハ
期ととちすす意なき薬成ちのてぬりもあや父が宛
船乃有さぬをとて何ハ誤ぎんそや乗きれらと
えと天ぬ焦土に叫て歎いせんあをかく目も
あてしとぬ次身あり居しうバ辺迎のりのも大を良を
なぐさちすじ父が死骸をバ大坂の檀形ちああらぬ
ふ大を師かろくも聖道の送る乃哀をバ見聞人
若ぬあをまよとてりしけを尊み一個の武士大を良ガ
為人を鑒定して良人よ取巻一が事あるよ何せ
泉見塚よかるとなき萬人歎見龍と号する云哉



者の家子奉仕させりるる大を良は教ふる七自余
勤仕私るく世の暇はバ寝食成りてきて日夜
去法物なを急せりるる乃且バ天性の女機を養
百折ふ磨の妙とぬら見珍たまきうふを席と使
て中なるへと且一隻の太身勢れなふに角八方と
圍まて万時雙眼を祀く敵ふむ心必死の形
構る老景なうくは方八方も世の間もなきこと乃
よく去法の妙にあり大を席が精神の太ふ
心とく名詮自性の理にかるバ必素心用大を良
と名るべしとて就十五歳の春も一流の秘傳と

法に授け印可でもゆるされぬば方もあるあり
強らぬ大を良の夜の夢も父の阪女眼の血の涙
をそぎ怒の面色も存せや十五支にもうけいま
ご母の敵をも討ぞ命子をいませぬさそしそ
又が母執とるまうせわくは四も成て大平成遂
ばとてとてとてとてとてとてとてとてとてとて
十五支にも及びて父母の宿願を遂せざる大平生
のか守り下にあはれと見珍も密を告て暇を
急俄に旅を告し去乃告もまきては四道路と
造作の心の境も復しては素も去波の旅路

このハ執る淡路の島にふるまの啼夢をんり
碩磨や明石の波の捲乃うつも敵よあそ大物
の浦和田の御傍のゆくさきにりうかきを遠
久ハ寄よるき北灘やとや名もさゆの浦風よ
其帆の退風と目殺死て渡枝必丸龜の港よぞ
忌に乃るかて去右郎ハ船をあがてまらぬ山
小糸信一毘比羅大権現よ祈物言して一ハふた
歌の妙事を尋んる二ハうの合ふ乃生と尋んる
三ハハ父母其提の若田屋と志一ハ中てけ
僕良ハ弘法大師誕生の地なま玉中出るくま

かく回てと道より伊豫上佐備波の冥境を悉く
順礼しては國邊路を歩納しうごも遠も熱ハもあ分
あそびして本意なくもまより休養の玉見碇が碇よ
渡せりうは國の難而み星を損せが今一寸も引がご
八浦といふ所よの艦士ハ漢士の数よ合はじわある一の
老賊其意よあそんらうも救日星を休めらるふあ
衆の意よあそ漢すりてえらるハ旅人長の権をひえて
あめかつひくしてハ最の世きりあつてみ妙やあり
洋中の湖よ星を洗ふ時ハ其地よいうある痛をこ
愈すの妙ありさ我衆よ負て付ひゆさんと云ふ



大を船へ大を喜びの漢乃のいふまゝせてやぐて出傍よ
つていふも小傍迎ふ有つる漢舟より来て居るの沖に
潜出せが体小傍漢漢はたとく巨漢連浪のすき
まどきおもぞ列アなるごとくそよき沼なりとらふたをい
何らなるはを海に浸さんとする雨をうの漢賊をあら
とらてさんぐもあすなり世時浪あらく舟ゆらめき目眩
免き獲獲うまぎと高とあつらふおすくらの大を船
勇力勝ま輕捷も遠くはしらも病とあ大敵もハ
かぬひごころをむうく思ふをくといふて身があ
せるむうかううの漢ハまたを漢をぬて大を船が體と

ぐのくと賞をよみて何々と笑ていふは今你と
海におおむる魚後小菰からするなとバ宛船の
争ふこやアをべしと見え来るの衆もあつると
なりはるハ腰が十両あや合子を持てるをえこそ
いれぞハ奪死んとのせと計はともそをぬとあつり
你がどう合せしこそ奪ひ我腰を隠教して合子
が奪とて你が殺して合子を盗り逃さしひをて
なして你が骸ハ海の底に沈てたまへバ誰かあ
衆然とるとも我物ぬ後日の男となくこそ
我身を金ふまを計畧かういふ小首尾好機関



6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

うすやといひきぬはあぢあぢてとこと踏倒こ
大を良船に倒し既し海子のぞきてとひなるハ我今
ハ命のさすじなまは持の合子を以て此奴を説な
合子をてうと十あなまは空きあて命ととをけ
りもあらんさまされバ我奉るもむりうびの波が
命とすすふとととひなるがやくは合ふハ人の
物かりとて又義を金鐵ふちまといまたの人多代
ふき用ひじてまきく親を見ごらじる合子をるま
ふとして今その合子を命とてるハたよあうど
とにもかくふも不運の末なりとあきらめ思と困て

親意とどうりるふは耐うの漢そろくと後でして
大を那がわりの重石とほやがて端まく浪るざん
ぬとあぢとていハ金助心なりる波身なり

○猫の仇

此時大を那ハる霧のそこよ沈しが鳴呼者ん
天よ感海の底までも通らまんいろしてと健切て
寝ハまづと骸ハとらくと波の上よ浮る出さる大を
元来水陸ハぬされどもりこの信もつらんりのをと
八大龍王儀を臺て昆比羅大権現擁護の
力をとさせ給へ南を大師遍照會別と

6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

長者と致^{とま}進^まあづ人よ一抄のれを歩せも嬌^きへむな
く^ま狩^ま行者^{ぎやう}などをとくえ一版^たれ旋^ねくハカウラ^がじ
そ且^ま由^ゆへも六^む七^{しち}宿^{しゆく}し^じと中^{ちゆう}と^とて^てろく^{ろく}取^と見^みて
ト^とく^く乃^の咽^{のど}まで^でテ^テナ^ナガ^ガク^クを^を力^{ちから}ハ^ハ榮^{えい}耀^{りやう}と^と好^{この}そ
り^りつ^つる^るより^{より}同^{どう}が^が嬰^{えい}こ^こち^ち我^{われ}引^ひ入^いる^る翌^{あした}夜^よほ^ほる^る
乃^のあ^あいて^{いて}と^とは^は坐^ざ敷^{しき}ハ^ハ着^{ちやく}ぐ^ぐも^もあ^ある^る九^くち^ちに^に舞^ま踊^う
く^く嬌^{この}免^{めん}り^りこ^こも^もひ^ひと^と踊^うて^てあ^あは^はせ^せの^のま^まき^きま^まよ^よ一
夜^よを^を明^あさせ^せ中^{ちゆう}べ^べき^きが^がら^らづ^づく^くも^も若^わく^くず^ずや^やと
り^りは^は耐^たさ^さし^しの^の英^{えい}雄^{ゆう}も^も精^{せい}ん^ん流^{りゆう}う^う進^{しん}を^をて^て一^いす^すも
歩^{ある}る^る我^{われ}宜^よぶ^ぶゆ^ゆあり^りが^がて^てく^くして^{して}大^{おほ}き^きを^を轉^のつ^つて^て

の下^{しも}ぬ^ぬかり^{かり}と^とあ^あま^ませ^せあ^あら^らじ^じと^とよ^よら^らの^の下^{しも}僕^べい^いさ
さ^さく^くむ^むと^とて^て女^めを^を席^{せき}我^{われ}本^{ほん}筋^{しん}屋^やの内^{うち}よ^よい^いざ^ざお^おひ^ひし^しが
聽^き人^{ひと}辨^{べん}の外^がよ^よ病^{びやう}つ^つま^まて^て足^{あし}ゆ^ゆる^るう^う唾^たに^に發^{はつ}笑^{せう}乃^の
車^{くるま}か^かう^う免^{めん}卒^{そつ}國^{こく}の^のい^いづ^づく^くも^もや^やと^と同^{どう}あ^ある^る大^{おほ}坂^{さか}あり
と^と若^わく^くま^まは^はく^くの^の下^{しも}僕^べを^を使^{つか}う^う大^{おほ}坂^{さか}と^とま^まく^くそ
怖^{おそ}し^しや^やと^とて^て涙^{なみだ}を^をた^たり^りく^くと^と流^{なが}し^しる^るま^まは^は大^{おほ}き^きを^を良^らふ^ふ席^{せき}
何^{なに}れ^れ大^{おほ}坂^{さか}と^とま^まく^くお^おと^とま^まあ^あら^らむ^むや^やと^とい^いら^らむ^むの^の下^{しも}
僕^べさ^さる^る仔^こ細^{さい}あり^り強^{つよ}う^うて^て劣^{せう}せ^せ中^{ちゆう}し^し我^{われ}免^{めん}素^そさ^さま^まで^での^の
下^{しも}船^{ふね}よ^よく^くも^もあ^あら^らず^ず此^{こゝ}碇^{いかり}の^の守^{まも}り^り地^ぢを^を庫^{くら}保^{たも}つ^つ政^{せい}
明^{あき}公^{こう}お^お仕^{つか}へ^へと^とは^は侍^{さむらい}と^とい^いが^が十^{じゅう}五^ごを^を自^{みづか}ら^ら采^{さい}を^を人^{ひと}

伏奉して大坂の奉行五奉行町といふ所まで行く
澤邊は幾日の日事警く用金十兩を失ひし
いふに捜せどもかいらまを足しを解し用金の内を
ばふ是より河とやん後めごく中伏もまぶごく
疑ふ切抜せむやと思ひしおの器情厚く何と
賄とぬちりて我を是よりけ家の下約とあり川
年々々々終根致しと免いふ由て主恩の合子
を償むやとあふとく多病打つきて費用と
薪物の若もむりく若く十両の合子個々
今も奉金を盡せすと音をるおて終日大坂
始終致さくも亡父の修りおきしと
符合しはばさては人々を又も紙屑と
若はりりりもと大に喜び何れも
何りても償授へるはと問ふの下僕
としてはるはと其のせら上色の
自らも後及寧川郡小豆島と書つ
とふ大を藤田と書いていふくの
以時懐中より伴の十両の合子と
とらふの下僕合子とて上色を
の自らもまされなうりはは
110 120 110

年の間その節乃と色いろのまゝよてくハ有しとて
あまされ
をいふ
不審ふしんをなす時ハ大志郎十五年
以希父乃阪女さか又た乃町よて紙屑くづを買かり中より
は食いを拾ひろひ出いし隠かくれのき日ひまでもおゆるとせず
又また遺いをよよりて此年月食いの主しゅ務むめめなるを
つさふ語ことばありし件くだの食いを喫くるもの下僕しもべ
さうに喜よろこびすして食いの味あじを待まちす只阪女親さか子こ
厚志こうしの不ふと感かんずるよあぬととバもとのしとと管くだ
涙なみだをなじ一ひと札はをなじく申まをせととなしく食いを
時とき退ひくといひく受うむととバ大志郎不ふ息いきして

なるハさある時ハ亡な足阪女さかが信節しんせつととて子こハみ
んと世よ世よもなく我われも親おやの遺いをよ此こ月つきさ人ひと乃
室むろとあづりて何なにの音ねあんとて歎なげ息いきかゝるは
の下僕しもべ糸いとのごくよとくさまでのゆつらばをむる
志こころくるまよハあふれども一ひと我われ屍し愈よくて其そのひ
食いと十五年ごじゅうごねんの星せいと経へて胡こ乱らん九くととす
いさよは志こころよても内うち身み親おや子こハ実まことも世よに好このしれ
義士ぎし孝こう子このく人ひとなる事ことの由ゆ成なりて序しり乃の殿とのに伝つたへ
りつとにも裁さい判はんよまふ子こじまら實まこと一ひと肌みあふるを
とてそのまゝ出いさしり頃とき刻ときあつて食い物ぶつと推おり来きり



とくはとまらせんと思ひしと我家の者にて
下さぬ乃食物と云ふ蓋きてきてあつたは
世と出でるるは対は小豆徳ハ小豆の
して者小豆のを給々の種とすは小豆粥を
我又氣の種をいくならとまらするなりとて
一挽の小豆もとあつた明日ゆくと語るとや
ゆきとて出さるぬ大を食は耐ふと肌も
く深くは下僕のを志をわすれぬと
一件の小豆もと食へるふ百味の飲食を
いざさげば小豆の味は美なるゆまことよ天の

其病とらふとくハ有まらきとぞ是れは
は小豆次食はあがりなる小何となく物身ゆるや小
なしてあき以志とらまらやなる物もあは
外而は人のそのぐる髪志なり何事やんと戸のすき
まよやうふひえは黒白の犬二隻のそありてあつた
人うもあつたは黒犬人の志乃とくまらるハ
白よ今你が家の奥義は盗人思ひ入るは何とて
恥知せざるぞとらふ一隻は白犬又人のとて
そのいなるハ黒よとてあつたは是ハ家の門前
よハわらふとあつたは喉食よして奥の骨とら



あつたすいさう胸中を思ふはさるるはあつたすいさう及
おとてけ二隻の犬乃声泣く人のさやうとくふ
く犬を席が辱もあつくと笑とてにうバ我なぐ
奇異希有の思ひをばておひめをするも我初
稚のみぎや犬乃乳汁とのまてく生長ぬこれぞ
自然と犬の精血をうまつぎ今犬のとむ成
笑は遠く板と又小豆を喰咽とるるとむ
志く年月うまひる大變忽ちさえてん神訓
ふなやまは全く徒まかり並に平愈ありある
不忠候さよとて是犬ハ陽獄ふして名を執大

小豆ハ犬の良薬とて熟成さぬすとばつたが今
立地ふ知能を見はるるこまをといふ天の祐
ふよして糸力平生ふまさりされバ今もあ
是敵も出合せばなると見せんすのいとやま
踊りあがりて歡ひるさて賢人をすておへきお
あつたといひそるも厨おひらりての下僕も若きせ
ら急ぎ家内の者を集めて教人碧花よらり
て是もあそや盗人えいさまバりかふはかぬのや
と天井あひの椽下床のふまをなくすこと
捜しりたや跳さりとるこをばあつたとおひ



6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

你等ハ眼のこゝぬ奴系うぬ商人とて此の梁乃
とまぐとわらうといつてたこと眠つまふじが忽ち
梁の上より大の漢藝と落しつゝバを日やとく
大勢あやとさあつてさる小自由縛めらば主の
監商人を志ろてらふやうとまハ是を登後て夜ハ
移やず吹鳴ふてささぎあうすともたつて
の免くと集りつゝ悪さよふしやくがて我
料配もるすじとままで本約をぬ殺業おけよあ
ら地よやよき者とり遠ぞさうバ又一献我
りうすじとて即坐一きの内よへりまハ商人を

商人を引立て本約をぬの内よつま好抱お綁
つまで出さるぬは耐大を良ハ本約をぬの内より火
なく悪園の中にあじうごとくは商人の面ありく
とこへはるよを今日志づありも選件の漢も
バ你日とをえとるやととむとらるふは商人大
小發匠内身よりくる悪器の中よて眼え
ゆもやと不審す你も又いひて眼えはまを
こそ我面とるよやと大を席お同後とま商人
人よりき息のとりも我く代表の中乃角とぬ
されバ命のきとに何とつてまん罪障職味の有

河で申さん日元来鼠の妖術と候一を思
の中にあつても眼光ときとあつてとさるる夜
は只妙と仰し鼠を流し我の十五ヶ
五ヶの町もすむひるが牡丹條も附子砒霜乃
毒が去こも阪女といふものを殺害し十枚の
金を取と奪とるべき奸計あましく大坂とバ
どくしてよま歩下とてまより四九
ざる不となく徳希の児信も押さる海士の
が令持とるとえこも信じて彼が
とるかり今日以身と海もまづわ車と計
は

はる一物あしく人よ見とがやとむ
去くは信ふ見り大合と盗みんと此家の
忍び入鼠の御と仰し一殺すのものを
好さしおに主乃彼女と見と見出
附れ肺とさ腫の光を射るがとく日
つうて深ふとありぬす是ぞふらと
猫も鼠のあふとく喻ふひとき
鼠の發術と仰しよく人の眼を
猫の眼と掩ひはじこまは隈
る来不覺とさるるにこそが術と物
の



よと人間ふてハあるがうばまさまく変化魔
性乃たをひきんさるも己とゆふた妖術
成る(つ)ついの命と果すなまとしてさーこの強盜
と首と投てくると大を良一と笑ていごあるもな
て己とハこは休が今中世阪女が一ふ大を麻なり
休よく秋親と毒害せんじ己とをも又まのちも怨
うるよな休さぬくの怨めとは救身の悪意を
まはバ秋母と殺害するの教のゆゑとさる
あんすもやも中べるとて刀残してむぬちよ
ううくせしとすゆる。賢人ハ打退て志せり

待まじとらづきて事あり命とてまあつ後り
申さんとらふ大を麻志せりて己と己とと
ふ前漢書も死に報する恩を収るく薄望も施す
とらるるあり老子経法花珠林鶴林玉露を
世考るも死を報するも恩を収るく又徳の
ハあるにやうてゆるさるもあん秋父ハ休が
あそんじてまぬる己と己とも休申る況して
母と殺さんじてさる己とありて害せざる
害せざるも己と今我母の敵とさる者志す
たもく過とらふるの賢人をひそめり



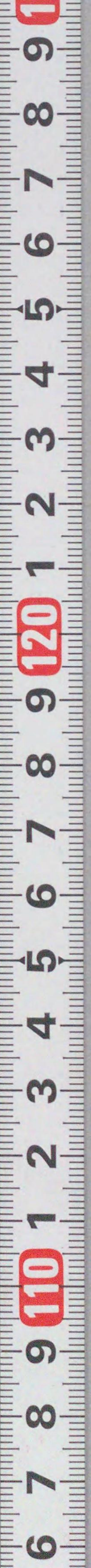
十五夜に花の身の母投死のみぎり死骸をいじり
驚くも蓋ごありて喉を嚙こぼしこゆるをわたり
ふんと人乃かきころを来あんと怪しむるも
ふら衆も胸をくも三毛猫ありそ目よりあまを
こぼしころもおいては相を親もふ伴の猫へおぼ
歎猫よて己身の母をのころ世のをさころり今宵
は衆の腹をさるふ伴の三毛猫れ不変よて己身の
母乃歎とらふは是るぞと終るを笑とをほく大を
勅然とて怒を發し養をふきり蓋とくらむる
さては我母の敵へ人よてもあはれぬの畜生うりはる

はおしよけのまこと猫の魔性もて私性なまき
い親き涅般血の附を救る住れ禽獣鳥大禽乃
申れと猫の一掃へ除きうれといふる変化魔王
ころともおぼしめしは身法をちをばて本
な成まかざる真意のころりて業極のひより望
の内成親きえまべいまるる宿宴の宛中よて
おころり大を良眼を定てつらぐえまべいといふ
主乃腹女といはしは五三ありの大猫よて又い
づとるも猫まこと救十隻なる怒も
のる扱といふは三殺の屋とらまをさるる拍子とて



踊おどとくるおう犬を席せきひていとして犬よあきれ
 せてなるぶさるやでもまわぐる変化へんげなりともいませ
 肉にくれとの急いそぶさるや我われの是こゝろ犬の精せい眼がんるしく猫乃
 不ふ変へんとて出いると身み入いりいで畜ちく生せいり目めさ返かへ
 之こゝろと長なが船ふねの一方いつぱとぬきせば坐ましきの内うちも踊おどり
 へに方かた八方はつぱう小せう雜ざ立た切きてひらきバ殺ころすの猫ねこも皆みな
 る或ある負おて吼う叫けいひに方かたもそらとよあちるこころを附
 うの大おほ猫ねこ眼がん梳かきて百ひゃく練れんの積つみ乃なりとく之こゝろとひく
 き一ひとに八はち耳みみのねまで裂さけて猛まう虎このどき牙きばと利とき
 我われのこまる来き你なんぢが来きも眼がんまは存ぞんず母ははと喰く殺ころせ

一ひとふ你なんぢと又また我われ餅もち食くとぬき来きてこころと吼うけり
 て飛とぐる犬いぬを是こゝろは呼よびていしくいり金かね別べつ神しんの勢いきか
 ひとあつておてくはバウの猫ねこまるハ夜や又また利り鬼きの
 あつとこころとぞく吼う叫けいるよみてこころ一ひと抗たいと飛とはくてぬか
 ぬこりとときをぬきまそらとづんと切きさばし猫ねこもこ
 腰こしより下したと切きてぬきさし一ひと殺ころあつと叫さけびし猛まう虎こ
 追おいて夜や又また震しん動どうは餓うへ大雨おほいぬりきこころ一ひとむす乃
 是こゝろ雲くも霧きり下くだるとはくが犬いぬを席せきが影かげを洗せんんであ
 こころも引ひきまわるとす犬いぬを良よハ猫ねこまが機はたととらて引ひき
 らさんとこころあひが令こと別べつ力りきと出いてつらもとらておさ



むなと成三刀まで刺してぬきぬき猫まゝ雷のさ
ろくぐとくおわき叫て死すハ怖しんといふとおら
かうりる歌勢なる大右良家内此者とおらつて様
下とあつこりるおまのさく世家のあや老女が死
骸出ぬまば家内のも乃ハきの歌かうと猫まゝとす
もはぬ是より世家と猫まゝと補とぞ申かゝるせり
そもくは小豆信ハ東西九里余の地うて右今も
孫のき歌討つと大右が初名一日のうちにさく
備北毛庫次郎の聴し遠く大右が孝義勇横志
奇異の事うと長者の絨室中きこととす

揚子江はバ大右席忽ち一日のうちに大蔵長者の
身とらつ亡父の本をよまうせて十歳の令子
返納しは毛庫以宛物より仔細とせり
おま親阪女と申ははて匹夫うといと仁義ハ
武士も願へずとて所成とあつて武門の教も
らる大右良ハ是むとよ大乃洪恩なるバと大坂より
うの犬乃懐と改葬し傷る孤堂も先祖の
系もあつて美抱と吊ひるこれよじてその徳大
徳といふて今もまの徳波の海中に砂とけ
る大も似る石今もまといつてねも又嵐也信とバ



死飛一巻と申して一冊はさるる巻ははらばき一が
日救るて威死と申ははらばき中よりさるる時ハ氣の
形かる也ハ氣徳と名づきたるはさるる巻ははらばき
さるる巻ハ八角大巻正照と名づきたるははらばき
巻名と申ははらばき兼北太友合戦の時救夜の際
と申して身生涯いさうして子孫繁昌
るもといひとくこと大巻良が孝ら天乃孫
と申ははらばき死

敵討猫魔屋鋪大尾



跋
数部大巻は乃中一
是ハ一冊物歎乃仇討忠孝あり
版本より中位ふとも覽玉せり
作者ねこまの中將
妻乞生盡るははらばきと



文化五年春正月

振鷺亭主人著

蹄齋北馬画

通油早

東武

村田屋治良兵衛

書肆

日本橋新右衛門町

上總屋忠

助



戊辰新版

慶賀堂藏

巷談坡隄庵

曲亭馬琴著

中本三冊

復雙言猫股屋敷

振鷺亭主人著

全一冊

函嶺復雙言談

感和亭鬼武著

全二冊

繡像宿直物語

式亭三馬著

全部六冊

孝子美談白鷺塚

十返舎一九著

前後四冊

歎討枕石夜話

曲亭馬琴著

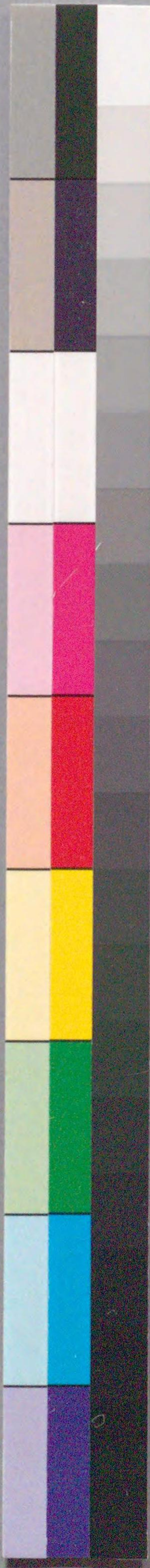
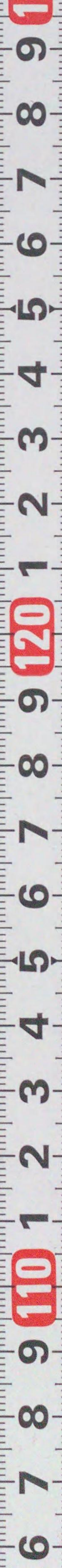
中本二冊

敵討書目次

208
165

赤書目次

古今 奇談 紫草紙 五全 冊	園字 怪談 暎艸 帑 五全 冊	小野 蕙 嘘 字 盡 全	復 讎 云 浪 速 梅 三全 冊	三 國 一 夜 物 語 五全 冊
園 老 巷 談 菟 道 園 五全 冊	戲 場 訓 蒙 面 會 五全 冊	風 聲 夜 話 翁 丸 物 語 二全 冊	古 實 今 物 語 全 六 冊	自 來 也 物 語 前 五 冊 後 五 冊





国立国会図書館 敵討猫俣屋敷 208-165

ガラス使用





国立国会図書館 敵討猫俣屋敷 208-165

ガラス使用